

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 15 回 定例委員会
日時	平成24年12月26日 自 15時 至 16時52分
場所	苫小牧市役所第2庁舎2階会議室
出席委員	委員長 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫 委員 和野 幸夫
欠席委員	
会議録署名委員	佐藤 郁子 委員
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 田中 亮太
事務局職員	学校教育部長 斉藤 章吾 スポーツ生涯学習部長 生水 賢一 学校教育部次長 澤口 良彦 スポーツ生涯学習部次長 木戸 克史 指導室長 中川 恵介 総務企画課長 戸村 真規 総務企画課総務係長 三橋 大輔 総務企画課総務係主事 田中 亮太
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（上原委員長） … 15時
2	会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3	会議録の承認 （上原委員長） 第14回定例教育委員会（平成24年11月22日開催）の会議録について、何か質疑等ございますか。 （一同「なし。」の声） －会議録どおり承認－
4	教育長の報告 小・中学校ともに、今年は12月21日に2学期の終業式を終えました。小学校は1月16日まで、中学校は1月15日までが冬休みになります。例年、インフルエンザが心配される年の瀬ですが、例年のない天気のせい、ノロウイルスが心配でしたが、インフルエンザでの学級閉鎖や学年閉鎖、臨時休校等もなく、冬休みに入るところです。ただ、12月7日に、連日からの暴風警報を受けて全校臨時休校をいたしました。臨時休校の判断というのは大変難しいところですが、子どもの安全を優先させる配慮・措置でございます。また、時期的に議会前の措置でしたので、別の意味で大変緊張した天気模様でした。 それでは、前回11月22日の教育委員会以降の出来事について御報告いたします。教育委員会翌日の23日には、市民会館で市民文化祭の表彰式が開催されました。多くの団体・代表者がお集まりになり、市長賞等の表彰式と、交流会が開催され

ました。27日から30日までは、本市の教育センターで、胆振教育局による校長・教頭職の人事面接を行っております。28日は悪天候の中でしたが、秋の叙勲祝賀会が開催され、教育関係では1人が叙勲受賞をされております。12月1日には、はなぞの幼稚園の発表会、午後に、中学生主張発表会が15校の15人により発表されました。明野中学校3年生の男子生徒が、最優秀賞を受賞しております。また、先程もお話しましたが、連日からの暴風警報を受けまして、7日に市内全小中学校を臨時休校としました。今年は例年になく天気で非常に不安定なことから、今後も厳重な注意が必要と考えております。15日から24日まで、王子杯争奪を兼ねた教育委員会杯の小学校アイスホッケー大会が開催されました。今年からカップを更新しまして、新品の教育長杯を授与してまいりました。16日が衆議院の国政選挙でした。政権が変わり、「教育を取り戻そう」がフレーズですが、今後が注目されます。

12月6日から14日までの9日間で、第8回定例市議会が開催されております。一般質問は、総勢21人の多くの議員が質問を行いました。教育委員会関連では17人、14項目・24件の質問をいただきました。そのうち、図書館の指定管理者導入に関する件で7人。12日の文教経済委員会でも、2人の委員から質問をいただいております。賛否両論からの質疑であり、大変注目されている事項であると考えております。はなぞの幼稚園の廃園につきましては、反対派2人からの質問がありました。他に、学校耐震計画、拓進小学校の通学路、そして学校教育に関しましては、矢嶋議員からも多くの質問をいただきました。その中で、制服通学については各中学校にもお願いをして、取組を強化するように進めたいと思っております。また、学力向上に関しましては、先進地の視察についても前向きな答弁をさせていただいております。最後に、新年に入りまして、1月13日に成人式が予定されております。また、教育委員会の新年会が25日に予定されております。当日には定例教育委員会も予定されております。図書館の指定管理者制度に関する勉強会も、1月に予定されております。新年交礼会等でお忙しいと思いますが、よろしく願いいたします。以上です。

(上原委員長) ありがとうございます。何か御質問等ございますか。

(佐藤守委員)	2つほどお訊きします。インフルエンザの流行はまだ、ということですが、毎年これから流行りだします。流行った場合の小・中学生の部活の取扱いが、例年どおりになるのかどうかをお訊きしたいのが1つと、3学期から中学校で柔道の授業が始まったと思いますが、その後事故等の問題がなかったかどうか、お訊きします。
(指導室長)	まず1点目の、インフルエンザ等で学級閉鎖・学年閉鎖・学校閉鎖となった場合の部活動についてですが、原則としましては、感染拡大という視点から、部活動は全て中止するという方向で考えています。ただし、小学校であれば少年団、中学校であれば部活動での大きな大会等がある場合につきましては、校長判断で対応するということですが、あくまで原則は感染拡大を抑えるということですので、その趣旨にのっとり対応することになります。それから、2点目の柔道の事故についてですが、これにつきましては全ての学校の授業に対し、1回は局と市の指導主事が訪問しまして、学校と色々懇談させていただいています。現段階で、事故等の報告は受けておりません。
(上原委員長)	他にございますか。
	(一同「なし。」の声)
5 議 案	
	第1号 平成24年度全国学力・学習状況調査の結果と考察について
(指導室長)	本年4月17日に実施しました、全国学力・学習状況調査の結果の考察について御報告します。今年度は、昨年に震災がございましたので、2年ぶりに全国調査（抽出調査）が行われ、北海道におきましては、抽出調査及び希望利用方式によ

り、全ての小・中学校で学力調査を実施しました。ただし、札幌市につきましては、希望利用方式調査は行わず、抽出校のみとなっております。したがって、学力調査及び児童・生徒の質問紙調査については、今年度の全国・全道の状況とともに、本市における過去の結果と合わせて比較し、考察しました。道教委では、文部科学省による抽出調査の結果発表後に、希望利用方式調査の結果を合わせた合算集計作業を行い、先日11月26日に公表しました。市教委としましては、この公表を受けまして分析等を行ったことから、今回の報告が12月になりましたこととお知らせいたします。

資料ですが、始めに市教委からの公表内容についてですが、昨年度と同様に調査結果の「概要」が1～3ページにございます。それから、「詳細」が5～8ページ。及び、「児童・生徒の質問紙調査結果と考察」が9～34ページです。更には、「市町村の分布から見る現状」が、35～38ページにございます。これらの公表を提案させていただきます。「市町村の分布から見る現状」につきましては、「義務教育の水準の維持・向上という観点から、市町村の状況と全国の関係について分かりやすく伝える工夫が必要である」という、他の教育委員会の意向を受けた対応になります。ただし、序列化や過度な競争につながらないようにすることを勘案し、市教委としましては、今年度も傾向や課題を文章で表現し、平均正答率の公表は控えたいと考えております。調査結果のポイントを小・中学校別にまとめ、「市町村の分布から見る現状」とともに、調査を受けた児童・生徒の保護者に配布し、結果の「概要」、「詳細」、「児童生徒及び学校質問紙の調査結果と考察」、「市町村の分布から見る現状」を教育委員会指導室のホームページに掲載したいと考えております。

(以下配布資料の説明)

最後に、来年度の全国学力学習状況調査についてですが、これは国の方針により全ての小・中学校が対象となります。加えて、経年比較を行うためのきめ細かな調査も、学校抽出により実施される予定です。なお、理科については来年度は実施されず、学力調査は2教科で行われます。平成25年4月24日(水)が調査実施予定日

となっております。

(上原委員長) 質疑に付します。

(佐藤守委員) 参加児童生徒数ですが、欠席はどのくらいの人数がいたのかと、資料の2ページの「1. 学校生活」で、読書が定着してきたと言いながら、読書を全くしない子の割合が高いという理由が分からないのですが、学校で毎日読書をしているのであれば、読まない子はどのような形で読まないのかを教えてください。それから、同じく資料の2ページで、中学3年生の40%が1時間も満たない学習時間だという実態についても、理由が分かれば教えてください。それから、夏・冬休みの補充授業ですが、聞いたところによると、内容は学校で違うとのことですが、「ただ学校に来て教科書を開いて問題を解かせて、分からなかったところを教えてもらえない。」という話を聞いたものですから、各学校の取組状況が分かれば教えてください。

(指導室長) まず、調査の欠席の数ですが、今年におきましては4月17日が調査日でしたが、その翌日と翌々日の2日間は予備調査ということで日にちを設けました。こうしたことから、例えば当日風邪で休んだ子については、次の日に受験して集計するというのですが、不登校の子につきましては実施していないという現状です。申し訳ないのですが、正確な数字は押さえておりませんので、確認して後ほど御報告いたします。それから、読書を全くしていない子の割合ですが、実は小学校で言いますと資料の18ページの48番と17番の設問にあるのですが、17番の「月曜日から金曜日までの家や図書館における1日当たりの読書時間」に、学校での朝読書は含まれておりません。したがって、毎日1時間以上読書をしているお子さんの割合は、本市は全国よりも高いのです。読書が好きだと回答している子の割合も、全国より高いです。しかし一方で、お子さんの中には全く本に触れないという、両極面の実態があるということで、全く読んでいない子の割合が高いのは大きな課題であるという認識ですので、学校での読書指導の更なる向上を図っていく必要があると思います。それから、中学3年生の40%が1時間に満たない学習時間だという実態の理由は、それ

を回答する設問がないので、当を得たことは申し上げられませんが、調査を実施した期日が3年生になってすぐの4月17日だということです。おそらく、現在の中学3年生は受験に向けてまっしぐらですので、この時期に勉強時間が1時間に満たないことはないと思いますが、これらの理由については、例えば部活動で忙しいのか、あるいは塾での勉強時間も含まれておりますから、色んな家庭生活の状況も含めて実態把握に努める必要がありますので、今後の課題としたいと思います。それから、補充的な学習について、一部で「分からないところを教えてもらえない。」といった声があるとのことですが、指導室としての喫緊の調査の中では、先程も申し上げましたとおり全ての小・中学校でこの冬休み中も補充的な学習を実施しております。ただ、言い方が悪いのですが、どの学力層をターゲットに実施するかというのは、それぞれの学校の実態によるものですので、一般的には中～下位の学力層をターゲットにして、学校としては「希望者は是非来なさい。」という強い働きかけも含めて実施しているところです。おそらく、発展的な学習の部分で中・上のレベルのお子さんに「分からないところを教えてもらえない。」といった声があるのかと思われそうですが、子どもの色んなニーズに応えられるように、もう少し幅を広げて学校体制の中で学習サポートの取組を進めていく必要があるという認識でおりますので、御理解いただきたいと思えます。

(佐藤守委員) 僕が考えるのは、中学3年生にとって授業は面白くないのではないかと。英語とか「ちんぷんかんぷんでもう分からないから勉強しない、だから家庭学習もしない。」ということであれば、とても心配です。それから、各小・中学校でサポート授業をする時に「分からないところは教えてあげるから。」というアピールをしているのかな、と。ただ学校に来てやれば良いというのではなく、「分からないところは教えます。」というアピールをすれば、親御さんも積極的に参加させるのではないかとという要望です。お願いします。

(上原委員長) 資料にも、テレビの視聴やゲーム、インターネットの利用時間が非常に多いとあります。携帯電話の所持率も非常に高いと。こういうことも、一因として

あるのではないのでしょうか。

(指導室長) 子どもにとっては、家に帰ってからの時間はどの子にとっても同じですから、当然テレビを観たり携帯電話を使ったりするという時間が多ければ多いほど学習時間に食い込むということで、やはり家庭での生活というものを保護者の方に啓発したり、協力を依頼することが非常に重要でして、実は今年度の苫小牧市の学力向上アクションプランの中でも3つの視点を示して、その3番目には「家庭への啓発・協力依頼」ということで、学校から家庭に対して子どもの家庭生活について啓発を図っていった、その改善を図っていこうというような取組を進めています。学習時間との相関関係は明らかですので、その辺も含めて啓発していきます。

(上原委員長) 保護者がいる時にはその場で勉強について色んなことが言えると思うのですが、共働き等で家にいないとなると、子どもが勝手にできますよね。そういう家庭環境的な面もあるのでしょうか。

(指導室長) 学習塾に通っている子の割合というのが、本市は全道・全国と比較して少ないです。それは今回の児童生徒質問紙調査にあるのですが、御指摘のありました学校から帰ってからの生活というのは、いわば親の指導、あるいは、目が行き届かない部分がありまして、生徒指導上の問題も絡んできますし、そういったことも含めて保護者が子どもの学習にどういう風に関わっていくのか。環境づくりや場の設定ですとか、そういったことも、一部の学校では既にPTA活動と連携して「学びの懇談会」と称して外部講師を招待して、お父さん、お母さん方に子育てに関する話を聞いてもらう機会を設けていますので、その辺りは大きな課題だと認識しているところです。

(上原委員長) 他にございますか。

(佐藤郁子委員) 新聞に出ていたのですが、緑陵中学校の澤谷校長先生のところだと思のですが、「一斉テストをしていた。」という話でした。資料31ページの設問38番の延長上にあることなのだろうと思います。調査結果を見て、「教育活動を改善した。」というところがあったのですが、始業式の後に一斉にテストを行って、採

点を生徒がするということでした。そこでお訊きたいのですが、試験は誰が作ったのか。今後はどのように利用・提示するのか。他の学校で独自にしているところがあるのか。この3点について、お訊きします。

(指導室長) 緑陵中学校については新聞にも掲載されておりました、私どももこの後、もう少し詳しく校長から話を聞こうとしているところです。今押さえている情報の中では、生徒会の取組の一環ということで、私どもも心配していたのは、子ども達が採点するということで、子どものテストの結果等によるプライバシーの配慮というものがどのようになされているのかということと、それから、結果についての公表ですとか、実際日常の学習活動にどう生かしていくかについては、学校にお訊きたいと思います。ただし、日常の授業改善に生かすような学力コンテストという類のものとは少し違う、という認識です。また、学校独自の調査というのは、実は苫小牧市で独自に行っている統一学力検査の対象が小学校5年生と中学校2年生で、学校によっては予算の中で小学校4年生と中学校1年生で実施しているところもございます。こういう検査や学校独自で行っている調査を踏まえて、教育活動に生かす取組を行っています。

(佐藤郁子委員) 緑陵中の取り組みについては、以前の調査結果が出てから生徒が自発的に結果や成果を知りたいということで、生徒が中心となってやったのではないだろうかという新聞記事を読んで思ったのですが、その試験を作ったのはどこなのでしょう。例えば、「9月から10月までに勉強した範囲を一斉に確かめてみよう」ということでやっているのか、それともテキストに沿った内容で作っているのかが興味あります。

(指導室長) 申し訳ございませんが、未確認です。近日中に確認しますので、明らかになりましたら御報告いたします。

(佐藤郁子委員) よろしくお願ひします。

(上原委員長) 他にございますか。それでは、私から。学力向上に関しては、各市町村ともに大変努力をしています。マスコミでも報道されていたのですが、釧路市議会

で学力向上のための条例が定められました。担当部局としてどの程度押さえていらっしゃるのか。それと、条例化ということで、私自身もそこまでやる必要があるのかな、という気がするのですが、もし考え方があるのならお聞かせ願いたいのと、苫小牧市議会のほうで、そういう動きがあるのかどうかを、分かっていたら教えていただきたい。

(指導室長) 苫小牧の議員さんからは、そういったお話は我々のほうにはありません。釧路の場合も、釧路市議会のほうから動きがあったと聞いておりますので、現段階では釧路市教委とはそのことについてやり取りしていません。苫小牧と釧路というマチの実態も、子どもの学習環境が異なることもありますし、議員さんのほうからそういう話が出てきましたら情報収集に努めたいと思いますし、苫小牧として学力の課題がどうであって、条例化することにどのような意義やメリットがあるかということも踏まえて、今後検討していきたいと思っています。

(上原委員長) はい。私自身も関心を持っていますので、今後資料等が出てきましたら、教えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

他に、質疑等ございますか。それではないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり承認—

第2号 教育委員会職員の処分について（諮問）

第3号 教育委員会職員の人事について

(上原委員長) 議案第2号及び第3号は、いずれも人事案件でございますので、苫小

牧市教育委員会会議規則第21条により秘密会としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

(上原委員長) それでは、議案第2号及び第3号は秘密会とすることに決定いたしました。関係者以外の方は、退席をお願いいたします。

—原案どおり承認—

6 協 議 …… な し

7 そ の 他

(上原委員長) それでは、その他にお持ちの方はいらっしゃいますか。

(スポーツ生涯学習部長) 12月6日付で、成人式の御案内を差し上げたのですが、平成25年1月13日の日曜日12時30分開場で、オープニングが13時15分から市民吹奏楽団による演奏が始まりまして、開式が13時30分からとなります。出欠の確認をさせていただいたのですが、当日欠席される委員の方はいらっしゃいますか。

(佐藤守委員) 今回、駐車場は……

(スポーツ生涯学習部長) 今回、駐車場に職員を配置できないために、ここの第2庁

